みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040
第1期実施計画中間案

令和8年11月

宮城県教育委員会

目　次

第1章　みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 の概要
　1　基本理念
　2　基本方針
　3　各圏域における再構築後の姿

第2章　実施計画の策定
　1　策定の趣旨
　2　実施計画の期間

第3章　各圏域における学びの質の向上
　1　普通科系の学び
　（1）進学系拠点校
　（2）普通科の改革の推進

　2　専門学科系の学び
　（1）先端技術に関する学び
　（2）実社会に直結する実践的な学び
　（3）各専門分野の主な学び

　3　多様な学び
　（1）idealスクール
　（2）定時制・通信制
　（3）特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

　4　オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

第4章　各圏域における高校配置
　1　高校配置の基本的な考え方
　2　令和21年度までの高校配置の見通し
　3　令和13年度までに実施する学級数や学科の変更

第5章　教育環境の整備
　1　生徒に対する支援体制
　2　教職員に対する支援体制

第6章　計画の進行管理と公表
　1　中期的な公表
　2　短期的な公表
　3　実施計画の更新

第1章　みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 の概要

1　基本理念

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる力を育むことが必要であり、ふるさと宮城の理解を深めながら、異なる価値観や文化を尊重し、的確な情報活用と課題解決を通じて新たな価値を創造する資質・能力を持つ生徒を育成していきます。

（1）高校教育の創造的再構築

○　各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造していきます。

（2）生徒を主語にした高校教育の実現

○　生徒が学びに対してより高い意欲を持ち、自立して活躍するための力を育む、生徒を主語にした高校教育を実現します。

（3）質の高い高校教育の実現

○　全ての生徒の可能性を最大限に引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。

2　基本方針

（1）県内全ての地域において生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保します。

・　多様化する生徒のニーズやライフスタイルにきめ細かく対応するため、生徒が学びを継続できる環境の構築に向け、県立高校における転編入や課程間の移動の仕組みの見直しについて検討します。

（2）スクール・ミッションの再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒の多様な学習ニーズに応じた、質の高い学びの機会を提供します。

（3）少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整えます。

（4）デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整えます。

（5）地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備します。

（6）多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進めます。

・　生徒一人一人に合わせた学びの手助けとして、学習のつまずきを解消する取り組みの推進などにより、希望する進路を諦めることなく自ら未来を切り拓けるよう、きめ細かなサポート体制構築を検討します。

3 各圏域における再構築後の姿

○ 宮城県全体を一つの「学校」としてとらえ、どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境を整える。

VRを活用した授業のイメージ

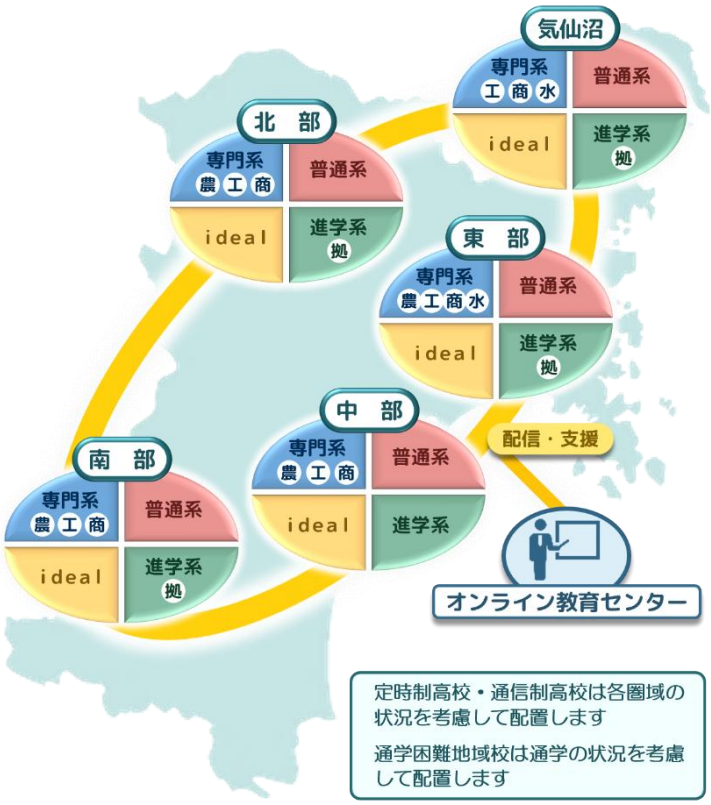


オンライン活用・海外交流のイメージ



栽培実習のイメージ





操船シミュレーター実習のイメージ



科学技術高校のイメージ



ｉｄｅａｌスクールのイメージ



第2章　実施計画の策定

1　策定の趣旨

○　ビジョンに掲げる「高校教育の創造的再構築」や「生徒を主語にした高校教育の実現」、「質の高い高校教育の実現」に向けて、構想を着実に推進し、急速な少子化の進展やそれに伴う高校教育に対するニーズが変化する中においても、新たな魅力ある高校教育の創造に向けて、具体的な取組や今後の高校配置を示すものです。

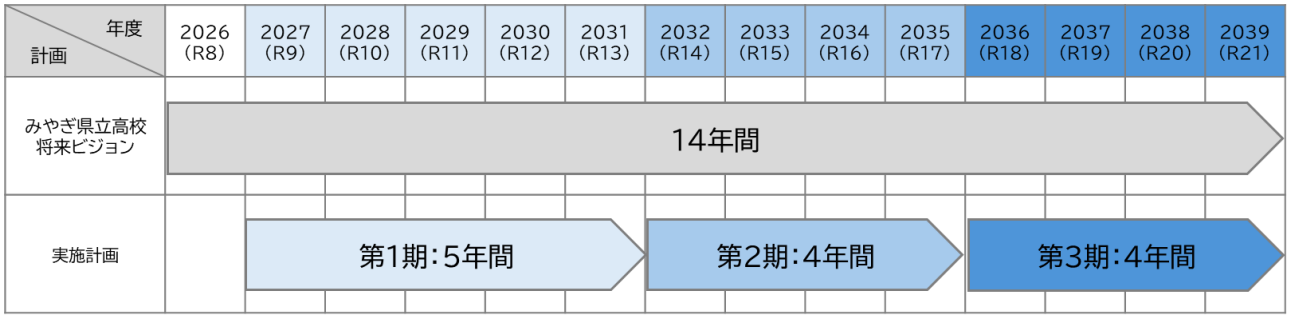
2　実施計画の期間

○　実施計画については、具体的な取組を段階的かつ着実に進めるため、令和９年度から令和 21 年度までの 13 年間を次の３つの期間に区分します。

第１期実施計画　令和９年度から令和 13 年度まで

第２期実施計画　令和 14 年度から令和 17 年度まで

第３期実施計画　令和 18 年度から令和 21 年度まで



第3章　各圏域における学びの質の向上

1　普通科系の学び

（1）進学系拠点校

○　急速な少子化が進行し、学校規模が縮小する中においても、生徒が切磋琢磨し合い、全ての生徒の可能性を最大限引き出すことができる学習環境を整備するため、どの圏域においても生徒が授業等を通じて、主体的に多様な他者と協働しながら資質・能力を高め、希望する進路の実現につなげることができるよう、教育支援体制を確立することが重要です。

○　そのため、オンラインを活用しながら、学校という物理的な教室や校舎の枠を越えた横断的な教育活動や、学習のつまずきを解消するコンテンツの提供により、大学等の進路目標達成の支援の充実を図ります。

○　具体的には、県内の4圏域（南部、北部、東部、気仙沼・本吉）ごとに、各1校を進学系拠点校に位置付け、中部地区の進学系高校とピアグループを形成します。これにより、SSH※（スーパーサイエンスハイスクール）や国際バカロレア・ディプロマプログラムなど各校が有する特色ある教育プログラムの充実を図るとともに、その指導ノウハウを「教育資源」として共有するネットワークを構築し、オンライン等を活用した課外講習や STEAM 教育※、合同学習、協働的な探究活動などを拡大していきます。

○　また、STEAM教育の推進に当たり、科学的思考力や理数的素養を基盤として、多様な知識や見方・考え方を関連付け、実社会の課題解決や新たな価値の創造に挑戦する資質・能力の育成を図ります。そのため、学校間連携や大学・企業等との協働を通じて、教科横断的な授業や探究的・実践的な学習活動を推進するとともに、これらの学びを支える施設・設備等の教育環境の充実を図ります。

○　大学との連携を一層強化し、大学での特別講義の受講や大学生との合同探究活動などを通じて、高度な知識や最先端の研究に触れることのできる機会を設定し、学問への関心や探究心を高めます。
　特に、宮城大学とは、大学の専門的知見を活かした高校3年間と大学4年間を見据えた教育課程の設計や、 高校・大学・学生の三者が共創的に関わる探究活動など、特別なプログラムを通じて、高大連携の取組を推進した上で、将来的に系属高校として位置付けることを検討します。

（2）普通科の改革の推進

○　国において、高等学校設置基準が改正され、令和4年度から、これまでの「普通科」の他に、「学際領域学科」、「地域社会学科」、「その他普通科」という新しい普通科の設置が可能となったことから、生徒の興味・関心や適性、地域の実情に応じて学校ごとに特色化・魅力化を図ることが求められています。

○　これからの普通科においては、生徒一人一人の多様な進路希望や学習ニーズに応じた学びを実現するとともに、地域や社会との連携を重視した教育を行っていく必要があります。その実現のため、各校がどのような生徒を育て、地域にどう貢献するのかという、目指すべき姿を示すスクール・ミッションの再定義に向けた検討を行います。

※SSH…文部科学省が将来の国際的な科学技術人材の育成を図るため、平成 14 年度より科学技術、理科・数学教育に関する研究開発等を行う高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール」に指定し、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的な探究能力等を培うことで、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための取組のことです。

※STEAM教育…科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広義の文芸（Art）、数学（Mathematics）の諸領域・各教科等を横断しながら、実社会で課題発見・解決に必要となる本質を見抜き考える力や新たな価値を生み出す創造力等を育む教育のこと。

○ その上で、再定義されたミッションに基づき、新しい普通科の設置検討や学校設定教科の開設、市町村や企業等との協働体制の構築を進め、生徒一人一人の進路希望に応じた柔軟で主体的な学びを実現します。

2 専門学科系の学び

(1) 先端技術に関する学び

○ 科学技術高校(工業系)の設置に向けて、工業高等学校に次世代技術統合センターを開設し、高校・企業・大学・地域をつなぐ教育ネットワークの拠点とします。その際、学校全体を一つの「スマートファクトリー」としてとらえ、従来の学科の枠を越えた横断的な学びや、既存の専門教育(機械・電気・化学工業等)に情報制御の視点を取り入れた授業改善、半導体技術・ロボティクス・AI 等の先端技術に対応した教育を推進するとともに、半導体に関わる学校設定科目の新設や、産学官連携による実践的な共同研究開発を導入します。

○ また、次世代技術統合センターに配備した先端機器や教育リソースを県域全体で有効活用するため、県域シェアリング制度等を通じて県内工業系高校と実習手順書、設定データ等を共有し、県全体の工業教育の質的向上と持続的な発展を図ります。これらの取組により、単なる要素技術の習得にとどまらず、生産管理、プロセス設計、品質保証といった一連の企業活動に関わる高次の資質・能力を養い、急速な産業構造や企業の変化に即応し、新たな価値を創出・実装できる高度技能者及び研究開発技術者の育成を目指します。

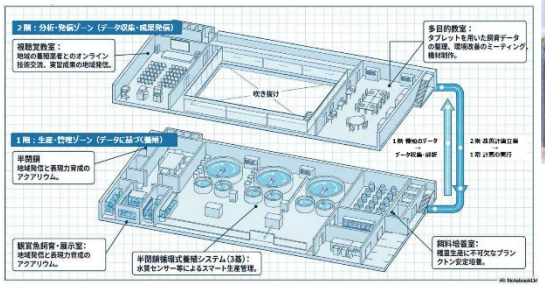
○ 科学技術高校(農業系)の設置に向けて、ICTやドローン、ロボットトラクタ等の先端技術等を活用した「スマート農業」に関する教育環境を整備します。その際、オンラインを活用して、基幹校を中心に教育リソースを共有し、県全体の農業教育の質的向上と持続的な発展を図ります。また、農業法人や大学・研究機関等と連携した高度で実践的なプログラムを導入し、持続可能な次世代の農業を牽引して地域の農産業における課題解決や新たな価値創造に貢献できるスペシャリストの育成を目指します。

○ 本県の基幹産業である水産業を支える人材を数多く輩出してきた水産高等学校を、次世代型の「陸上養殖・水産イノベーション教育拠点」として再構築します。具体的には、半閉鎖循環式陸上養殖施設を整備し、ICT を活用した水質管理や自動制御等、陸上養殖に必要とされる先進的な技術の習得等、海洋デジタル技術を活用しながら、持続可能な水産業と海洋環境の創造に資する実践的な教育を展開し、地域産業を支える人材の育成を目指します。

○ また、他校と連携し、生産・加工・販売・データ分析・生産改善を循環させる分散型6次産業化を通じて、他者との協働により付加価値を創出できる人材の育成を目指します。



次世代技術統合センター整備イメージ



陸上養殖施設整備イメージ





（2）実社会に直結する実践的な学び

○ 地域資源に触れながら課題解決型の学習に取り組むことや、6次産業化を含む生産から製造、販売までの一連の流れに関する総合的な学習を通じて、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供します。

○ 大崎創成高等学校を令和9年4月に開校し、食をテーマとした様々な職業専門的な学びを展開し、社会的・職業的自立に必要な能力を育成するとともに、農業・家庭・商業の各専門分野の特色ある取組をとおして、生徒の多様な個性や能力の伸長を図ります。

○ 白石工業高等学校に土木系人材の育成に向けた学科を設置し、地元企業等と連携した実習やインターンシップを充実させることで、地域のインフラ整備や防災・減災を最前線で支える能力を育むなど、実社会に通じる学びを推進します。

（3）各専門分野の主な学び

○ 家庭に関する学びは、生活産業に関する事象を『生活の質の向上』の視点で捉え、衣食住や保育等の基礎的・専門的な知識・技能を習得します。AI・データサイエンス等を活用した学びの充実とともに、手仕事や伝統産業に息づく技の価値を理解し、生活産業や地域社会の発展を後押しする高度専門人材を育成します。

○ 看護に関する学びは、デジタル機器を効果的に活用しながら、基礎的・専門的な知識・技術を身に付ける学習を充実させるとともに、病院における実習などの実践的な学びによって高度な専門性を養い、高い倫理観と人間の尊厳に基づき、地域の保健医療福祉を支える高度専門人材を育成します。

○ 福祉に関する学びは、人間の尊厳と自立を根幹に置きながら、介護テクノロジー等の効果的な活用に関する学びを深めるとともに、多様な人材との協働を支えるチームマネジメントを身につけ、地域住民や現場との協働を通して地域福祉の課題解決に参画し、地域共生社会の実現を牽引する高度専門人材を育成します。

○ 体育に関する学びは、スポーツの実践を通して心身ともに健全な人間の育成を目指すとともに、専門的な理解と高度な技能修得により、スポーツの振興発展に寄与できる資質や能力を育成します。さらに、外部の専門指導者による実践的かつ高度な講義や実技指導等を通じて、より専門性の高い学習環境を整え、スポーツを通じた社会課題の解決やスポーツ文化の発展を担う人材の育成を目指します。

○ 美術に関する学びは、地域文化や社会的課題との関わりを重視しながら、表現と鑑賞の教育を一体的に展開し、創造性や感性、主体的に課題を探究する力の育成を図ります。また、多様なメディアを活用して、異なる分野を連携・統合させた表現を追求し、地域資源を活用した実践的な学習や外部機関との連携を通じて、学びの充実を推進します。

○ 英語に関する学びは、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、特色ある専門科目の学習をとおして、外国の事情や異文化を幅広く学び、異なる文化を持つ人々と交流するための基礎を養い、AI やデジタル学習基盤を効果的に活用しながら、相手の意向を理解し自分の考えを表現する実践的コミュニケーション能力を伸ばします。

○　理数に関する学びは、課題を把握し解決を図る一連の過程を通して、数理的・科学的な探究の方法や課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を身に付けるとともに、特色ある専門科目や「理数探究」等における主体的な実験・観察により、事象や社会の課題を数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力と多様な他者と対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度を養い、将来の本県の科学技術の振興や学術研究を通じた知の創出、イノベーションをけん引する創造性豊かな人材を育成します。

○　観光に関する学びは、観光の基礎知識や技術を学ぶとともに、観光客への接客対応によるコミュニケーション能力の向上や、観光ガイドに必要な英会話の習得など、地域と連携した実習により、様々な接客・サービス分野全般で広く活躍できる実践的な力を育てます。また、データやマーケティングに基づき、地域資源を観光商品に結び付ける企画力を高め、観光産業や地域で活躍できる人材を育成します。

○　災害科学に関する学びにおいては、特色のある学校設定教科・科目の授業に加え、フィールドワークや専門機関との連携を通して自然災害を科学的にとらえる知識や技能を身に付けます。持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の考えを取り入れ、防災・減災を切り口とした自然科学や社会科学、国際理解教育、課題研究などを幅広く学習し、防災・減災のリーダーとして国際的に活躍できる人材を育成します。

3 多様な学び

（1）idealスクール

○ 生徒の多様な学習ニーズに応じて、フレキシブルに学ぶことのできる全日制・普通科・単位制の新たなタイプの学校として、令和9年4月に広瀬ideal高等学校が開校します。

○ 1校時～8校時という幅広い時間帯で時間割の「枠」を設定し、生徒一人一人の進路希望、興味関心、学びのスタイルに合わせて柔軟なカリキュラム選択が可能となることや、固定した学級を設けず、チューターの先生が生徒一人一人に対応するなど、充実したサポート体制で安全・安心な環境を整備します。

○ また、広瀬 ideal 高等学校の成果を検証しながら他圏域への展開を検討します。

（2）定時制・通信制

○ 定時制課程は、働きながら学ぶ生徒への教育機会の保障という役割を果たしつつ、学習面や生活面で配慮を要する生徒が学ぶ場としての役割も果たしていることから、生徒の学習ニーズや個々の状況に応じた学校の在り方について検討します。

○ 通信制課程は、年齢や職業、学力等が多様な生徒に学習機会を提供できることもあり、近年、進学者数が増加傾向にあります。そのため、美田園高等学校における生徒の在籍状況や学習状況、教育活動の実態を踏まえながら、需要に応じて、スクーリング拠点の整備や通信制高校の増設など、体制の充実・強化について検討します。

（3）特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

○ 高校と特別支援学校が隣接しているという特性を生かし、大河原産業高等学校川崎校と岩沼高等学園川崎キャンパスを併置と位置づけ、行事や課外活動、授業等を共同で実施することで、両校の生徒の積極的な交流を通じて、インクルーシブ教育についての理解を深め、相互に尊重し合える環境を整備します。

○ 通級による指導においては、入学前からの情報共有について中学校との連携を一層強化し、指導体制の充実を図るとともに、生徒一人一人の状況に応じて、本人の意思を尊重しながら必要な配慮を行います。

○ 特別な配慮や支援を必要とする生徒が、自身の特性を理解し、卒業後に社会的・職業的に自立できるよう、個々の教育的ニーズに応じた切れ目ない支援体制を構築します。

○ 全ての生徒に分かりやすいユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級経営や授業づくり、ICT の活用等により、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導の充実を図ります。

○ 教室での集団活動に不安や困難を抱える生徒に対しては、別室支援等を柔軟に活用することなど、様々な方策により心理的な負担軽減に努め、教育環境の充実を図ります。

○ フレキシブルに学べるidealスクールや、生徒のライフスタイルに合わせて学習できる定時制課程など、個々の生徒に応じた学習環境を整備するとともに、学校に登校していない生徒の学習機会の確保と社会的自立を支援するため、学びの多様化学校の設置に向けた具体的な検討を進めます。

○ 高校入試の受験においては、障害の状態や本人の教育的ニーズ、保護者の希望等を踏まえ、中学校での支援実績等を共有するなど、中高の連携を図りながら、別室受験や試験時間の延長、デジタル技術の活用等を含め、志願者一人一人に応じた受験上の合理的配慮を適切に提供します。

4 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

○ 県内のどこに住んでいても専門的な学びや希望する進路を実現に向けて、学びの質の向上や生徒の多様なニーズに対応できるよう、オンライン教育センターを設置し、これまでの遠隔授業配信の実績を踏まえながら、単独の学校だけでは成し得ない充実した学びの機会を提供します。

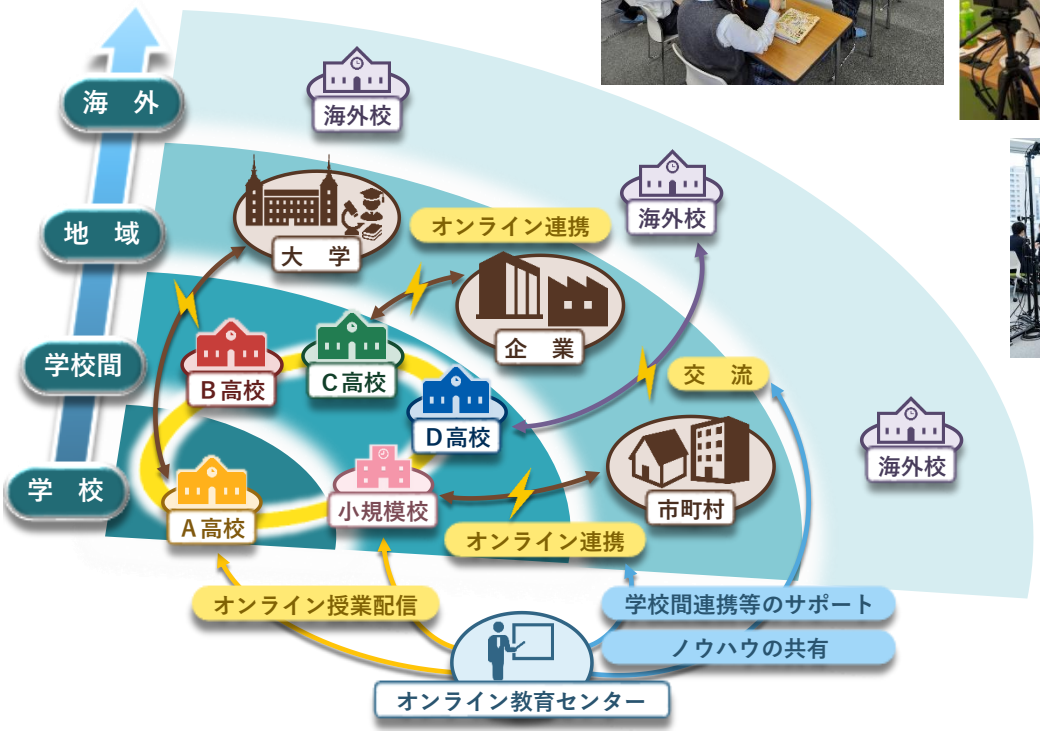
○ オンライン教育センターを中心とした、リアルタイムの授業配信のほか、オンデマンドによる学習支援やオンライン教育に関するコンテンツの作成など、効果的な授業方法や ICT 機器の活用方法を研究します。また、学校同士をオンラインでつなぎ、学校間連携や海外との交流をサポートするなどし、オンラインの活用による広がりのある学習環境を構築します。

○ 小規模校については、生徒の人間関係の固定化が生じやすいことや、多様な価値観に触れる機会が少ないこと、教職員が少人数となることなど、教育資源に限りがあります。そのため、オンライン教育センターから授業を配信することにより、専門教員による多様な教科・科目開設や習熟度別授業を実施します。また、学びと実社会の接続を実感できるようにするため、動画等のコンテンツを通じて、生徒の興味・関心を起点に視野を広げ、多様な価値観に触れる機会を創出します。









第4章　各圏域における高校配置

1 高校配置の基本的な考え方

（1）全体方針

○ ビジョンの終期となる令和 21 年度の高校配置を見据えながら、従来の生徒数の減少に合わせた単なる学級減等ではなく、教育内容や学びの方法等を踏まえた学校規模の見直しや学科改編により、高校教育の抜本的な見直しを行います。

（2）学校規模

○ 1学年当たりの適正な学校規模（学級数）は定めないものの、圏域ごとに必要な学級数を設定し、一定の学校規模を確保します。

○ 本計画における学級数は 40 人学級で推計していますが、今後、制度の変更が行われた場合には、35 人学級や 30 人学級などの学級規模で推計を行います。

○ 少子化の進展や高校教育に対するニーズの変化等を踏まえて、毎年、中学校卒業者見込数及び必要学級数を見直します。

（3）高校配置

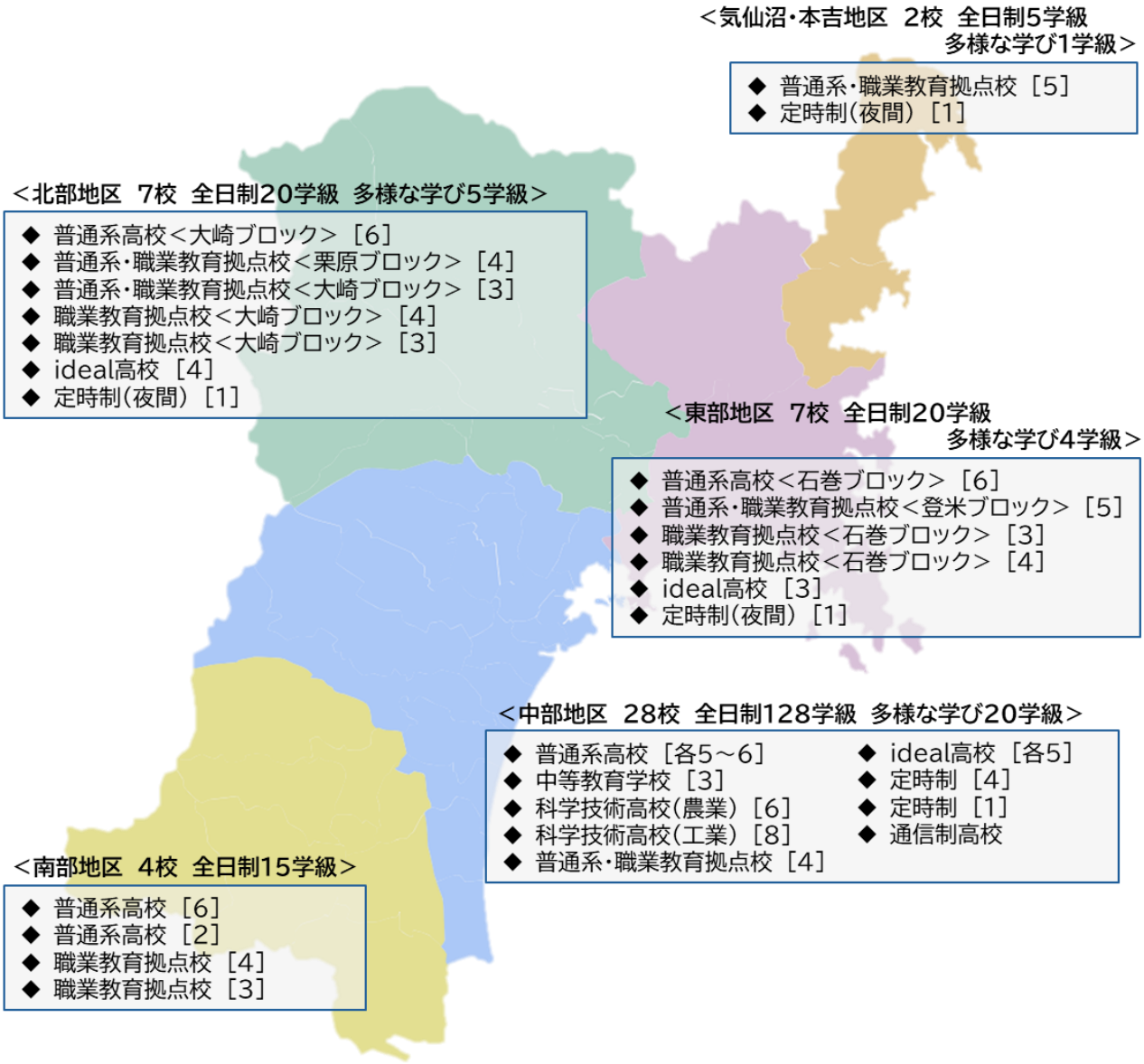
○ 専門系の学びについては、フィールドの関係から、キャンパス校の活用も検討します。

○ 早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する「通学困難地域」には、通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討します。

（4）スケジュール

○ 具体的な高校配置については、再編・統合となる約4～5年前に公表し、検討を進めます。

2　令和21年度までの高校配置の見通し



※［ ］内の数字は1学年当たりの学級数

※上記の学校数及び学級数には、仙台市立5校24学級程度、石巻市立1校2学級程度を含みます。

※上記に記載のほか、学校に登校していない生徒への対応として、学びの多様化学校について別途検討します。

宮城県

R7の配置状況　中学校卒業者見込数(R7.3):19,265人

○全日制設置学級数:338学級　※R7全日制必要学級数:305学級
○定時制設置学級数:25学級　○通信制:500名

1 全日制

	学校数	圏域別						
		南部	中部	大崎	栗原	石巻	登米	気仙沼
普通系高校		5	24	7	2	3	2	2
農業高校			1	1				
工業高校		1	1	1		1		
商業高校				1	1	1		
水産高校						1		
複数学科を有する専門高校		1					1	1
総合学科		2		1	1	1		1
県立学校数計	**64**	9	26	11	4	7	3	4
市立仙台			1					
市立仙台工業			1					
市立仙台商業			1					
市立桜坂						1		
市立学校数計	4		3			1		
県立＋市立計	68	9	29	11	4	8	3	4

※普通系高校には、普通科と専門学科が併設されている高校を含む。
※複数学科を有する専門高校とは、農業科及び商業科、水産科及び商業科などの学科が併設されている高校を指す。

2 定時制等

	学校数	圏域別						
		南部	中部	大崎	栗原	石巻	登米	気仙沼
定時制(昼間)		1		1		1		
定時制(夜間)			2	1			1	1
定時制(昼間・夜間)			1			1		
県立学校数計	**10**	1	3	2		2	1	1
市立仙台大志			1					
市立仙台工業			1					
市立学校数計	2		2					
県立＋市立計	12	1	5	2		2	1	1
通信制	1		1					

R21年春の姿　中学校卒業者見込数(R21.3):12,240人

○全日制必要学級数見込み:188学級(40人学級換算)※ideal高校の再掲分含む
○多様な学びへの対応:30学級　○通信制:500名

1 全日制

	学校数	圏域別				
		南部	中部	北部	東部	気仙沼
普通系高校		2	14	1	1	
中等教育学校			1			
普通系・職業教育拠点校			1	2	1	1
職業教育拠点校		2		2	2	
科学技術高校			2			
(再掲)ideal高校			2			
県立学校数計	**34**	4	20	5	4	1
市立仙台			1			
市立仙台工業			1			
市立仙台商業			1			
市立桜坂					1	
市立学校数計			3		1	
県立＋市立計	38	4	23	5	5	1

2 多様な学び

	学校数	圏域別				
		南部	中部	北部	東部	気仙沼
ideal高校			2	1	1	
定時制(夜間)			1	1	1	1
定時制(昼間・夜間)			1			
県立学校数計	9		4	2	2	1
市立仙台大志			1			
市立仙台工業			1			
市立学校数計	2		2			
県立＋市立計	11		6	2	2	1
通信制	1		1			

※全日制高校と定時制(夜間)を併置する場合には1校とする場合もあります。
※上記に記載のほか、学校に登校していない生徒への対応として、学びの多様化学校について別途検討します。

南部地区

R7の配置状況　中学校卒業者見込数(R7.3):1,349人

学校数	学級数	学科別						
		普通	体育	農業	工業	商業	看護	総合
9								
白石	7	6					1	
角田	4	4						
柴田	4	3	1					
白石蔵王	1	1						
大河原産業川崎	1	1						
大河原産業	6			2		4		
白石工業	6				6			
村田	3							3
伊具	3							3
全日制計	**35**	15	1	2	6	4	1	6
必要学級数	**28**	43%	3%	6%	17%	11%	3%	17%

学校数	学級数	学科別						
		普通	体育	農業	工業	商業	看護	総合
1								
白石七ヶ宿(昼間)	1	1						
定時制計	**1**	1						

R21年春の姿　中学校卒業者見込数(R21.3):641人

学校数	学級数	学びの類型					
		進学系	普通系	農業系	工業系	商業系	看護系
4							
①普通系高校	6	1	4				1
②普通系高校	2		2				
③職業教育拠点校	4			1		3	
④職業教育拠点校	3				3		
全日制計	**15**	1	6	1	3	3	1
必要学級数見込み	**15**	7%	40%	7%	20%	20%	7%

※圏域でアイデアルの要素を取り入れ、多様な生徒へのニーズに対応します。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。

<参考:R7→R21の中学校卒業者見込数>　(人)

市町村	R7	R21	市町村	R7	R21
白石市	251	119	村田町	79	38
角田市	244	116	柴田町	307	146
蔵王町	93	44	川崎町	49	23
七ヶ宿町	12	6	丸森町	86	41
大河原町	228	108	計	1,349	641

※中学校卒業者見込数は幼児人口(1歳から5歳)及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

中部地区その1

R7の配置状況　中学校卒業者見込数(R7.3):13,315人

学校数		学級数										
		学科別										
		普通系										
29		普通	理数	体育	美術	英語	国際	災害	農業	工業	商業	家政
仙台第一	8	8										
仙台第二	8	8										
仙台第三	8	6	2									
塩釜	8	6									2	
宮城第一	7	5	1				1					
仙台南	7	7										
仙台三桜	7	7										
多賀城	7	6						1				
利府	7	5		2								
名取	7	6										1
仙台二華	6	6										
泉館山	6	6										
泉松陵	6	6										
仙台西	6	6										
宮城広瀬	6	6										
富谷	6	6										
名取北	6	6										
宮城野	6	5				1						
仙台東	6	5					1					
泉	6	5					1					
仙台向山	5	4	1									
黒川	5	2								3		
亘理	4	2							1			1
松島	4	2									2	
農業	6								6			
工業	8									8		
市立仙台	8	8										
市立仙台工業	6									6		
市立仙台商業	8										8	
全日制計	188	139	4	2	1	2	1	1	7	17	12	2
必要学級数	189	74%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	4%	9%	6%	1%

R21年春の姿　中学校卒業者見込数(R21.3):9,263人

学校数		学級数						
		学びの類型						
23		進学系	普通系	農業系	工業系	商業系	家政系	ideal
①普通系高校	6	6						
②普通系高校	6	6						
③普通系高校	6	6						
④普通系高校	6	6						
⑤普通系高校	6	6						
⑥普通系高校	6	6						
⑦普通系高校	6	6						
⑧普通系高校	5	5						
⑨普通系高校	6		6					
⑩普通系高校	5		5					
⑪普通系高校	5		5					
⑫普通系高校	5		5					
⑬普通系高校	5		5					
⑭普通系高校	5		3			2		
⑮中等教育学校	3	3						
⑯科学技術高校(農業)	6			6				
⑰科学技術高校(工業)	8				8			
⑱普通系・職業教育拠点校	4		1		3			
⑲(再掲)ideal高校	5	※ideal高校は次頁多様な学びの再掲						5
⑳(再掲)ideal高校	5						1	4
県立全日制計	109	50	30	6	11	2	1	9
	−	46%	28%	5%	10%	2%	1%	8%
㉑市立仙台 ㉒市立仙台工業 ㉓市立仙台商業		※市立のため、市教委と学級数等について、今後調整						
市立全日制計								
県立＋市立計	128							
必要学級数見込み	128							

※理数、体育、美術、英語、国際、災害科学の学びは進学系・普通系に含まれます。
※上記学級数に仙台市立の中等教育学校の学級数は含まれません。
※学びの類型ごとの学級数及び全体の学級数は、仙台市教育委員会との調整の結果、変動する可能性があります。

中部地区その2

R7の配置状況

学校数	学級数		
		学科別	
6		普通	工業
貞山(昼3、夜1)	4	4	
市立仙台大志 (Ⅰ部3、Ⅱ部1)	4	4	
第二工業(夜間)	2		2
市立仙台工業(夜間)	2		2
名取(夜間)	1	1	
定時制計	13	9	4
美田園		500	※定員数

R21年春の姿

学校数	学級数				
		学びの類型			
7		普通系	工業系	家政系	ideal
①ideal高校	5				5
②ideal高校	5			1	4
③定時制(昼3、夜1)	4	4			
④定時制(夜間)	1	1			
県立計	15	5		1	9
⑤市立仙台大志 (Ⅰ部、Ⅱ部) ⑥市立仙台工業(夜間)		※市立のため、市教委と学級数等について、今後調整			
市立計					
県立＋市立計	20				
⑦通信制高校		500	※定員数		

※学びの類型ごとの学級数及び全体の学級数は、仙台市教育委員会との調整の結果、変動する可能性があります。
※全日制高校と定時制(夜間)を併置する場合には1校とする場合もあります。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。

<参考:R7→R21の中学校卒業者見込数>　(人)

市町村	R7	R21	市町村	R7	R21	市町村	R7	R21
仙台市	9,145	6,362	富谷市	634	441	利府町	379	264
塩竈市	398	277	亘理町	292	203	大和町	265	184
名取市	819	570	山元町	75	52	大郷町	64	44
多賀城市	525	365	松島町	96	67	大衡村	47	33
岩沼市	411	286	七ヶ浜町	165	115	計	13,315	9,263

※中学校卒業者見込数は幼児人口(1歳から5歳)及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

北部地区

R7の配置状況（大崎）　中学校卒業者見込数（R7.3）：1，669人

学校数	学級数	学科別					
11		普通	農業	工業	商業	家政	総合
古川	6	6					
古川黎明	6	6					
涌谷	3	3					
中新田	3	3					
岩出山	2	2					
鹿島台商業・松山・南郷	6	2	1		2	1	
加美農業	3		3				
小牛田農林	5		2				3
古川工業	6			6			
全日制計	40	22	6	6	2	1	3
必要学級数	30	55%	15%	15%	5%	3%	8%

学校数	学級数	学科別					
2		普通	農業	工業	商業	家政	総合
田尻さくら	3	3					
古川工業（夜間）	2			2			
定時制計	5	3		2			

R7の配置状況（栗原）　中学校卒業者見込数（R7.3）：447人

学校数	学級数	学科別		
4		普通	商業	総合
築館	4	4		
岩ヶ崎	2	2		
築館一迫商業	1		1	
迫桜	4			4
全日制計	11	6	1	4
必要学級数	9	55%	9%	36%

R21年春の姿　中学校卒業者見込数（R21.3）：1，096人

学校数	学級数	学びの類型					
5		進学系	普通系	農業系	工業系	商業系	家庭系
①普通系高校 <大崎ブロック>	6	1	5				
②普通系・職業教育拠点校 <栗原ブロック>	4				4		
				※キャンパス校活用想定			
③普通系・職業教育拠点校 <大崎ブロック>	3		1	1		1	
				※キャンパス校活用想定			
④職業教育拠点校 <大崎ブロック>	4					4	
⑤職業教育拠点校 <大崎ブロック>	3				3		
全日制計	20	1	7	4	4	3	1
必要学級数見込み	20	5%	35%	20%	20%	15%	5%

※②、④の高校の学びの類型ごとの学級数は、生徒の希望により変動する可能性があります。その結果、学びの類型ごとの学級数が変動する可能性があります。

学校数	多様な学びへの対応	学びの類型					
2		ideal	普通系	農業系	工業系	商業系	家庭系
①ideal高校（全日制）	4	4					
②定時制（夜間）	1		1				
多様な学び計	5	4	1				

※ideal高校と定時制（夜間）を併置する場合には1校とする場合もあります。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。
※専門系の学びは、フィールドの関係から、キャンパス校の活用も想定しています。

<参考：R7→R21の中学校卒業者見込数>　（人）

市町村	R7	R21	市町村	R7	R21
栗原市	447	194	涌谷町	105	57
大崎市	1,163	629	美里町	193	104
色麻町	64	34	計	2,116	1,096
加美町	144	78			

※中学校卒業者見込数は幼児人口（1歳から5歳）及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

東部地区

R7の配置状況（石巻）　中学校卒業者見込数（R7.3）：1，403人

学校数	学級数	学科別				
8		普通	工業	商業	水産	総合
石巻	6	6				
石巻好文館	5	5				
石巻西	4	4				
石巻工業	5		5			
石巻商業	4			4		
水産	3				3	
石巻北	4					4
市立桜坂	4	4				
全日制計	35	19	5	4	3	4
必要学級数	28	54%	14%	11%	9%	11%

学校数	学級数	学科別				
2		普通	工業	商業	水産	総合
東松島（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）	3	3				
石巻北飯野川（昼間）	1	1				
定時制計	4	4				

R7の配置状況（登米）　中学校卒業者見込数（R7.3）：615人

学校数	学級数	学科別				
3		普通	農業	工業	商業	福祉
佐沼	6	6				
登米	2	2				
登米総合産業	6		1	3	1	1
全日制計	14	8	1	3	1	1
必要学級数	11	57%	7%	21%	7%	7%

学校数	学級数	学科別				
1		普通	農業	工業	商業	福祉
佐沼（夜間）	1	1				
定時制計	1	1				

R21年春の姿　中学校卒業者見込数（R21.3）：1，029人

学校数	学級数	学びの類型					
5		進学系	普通系	農業系	工業系	商業系	水産系
①普通系高校 <石巻ブロック>	6	1	5				
②普通系・職業教育拠点校 <登米ブロック>	5		3	1	1		
				※キャンパス校活用想定			
③職業教育拠点校 <石巻ブロック>	3				3		
④職業教育拠点校 <石巻ブロック>	4					2	2
全日制計	18	1	8	1	4	2	2
	–	6%	44%	6%	22%	11%	11%
⑤市立桜坂		※市立のため、市教委と学級数等について、今後調整					
市立全日制計							
県立＋市立計	20						
必要学級数見込み	20						

※学びの類型ごとの学級数及び全体の学級数は、石巻市教育委員会との調整の結果、変動する可能性があります。

学校数	多様な学びへの対応	学びの類型					
2		ideal	普通系	農業系	工業系	商業系	水産系
①ideal高校（全日制）	3	3					
②定時制（夜間）	1		1				
多様な学び計	4	3	1				

※ideal高校と定時制（夜間）を併置する場合には1校とする場合もあります。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。
※専門系の学びは、フィールドの関係から、キャンパス校の活用も想定しています。

<参考：R7→R21の中学校卒業者見込数>　（人）

市町村	R7	R21	市町村	R7	R21
石巻市	1,062	560	女川町	30	16
登米市	615	290	計	2,018	1,029
東松島市	311	163			

※中学校卒業者見込数は幼児人口（1歳から5歳）及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

気仙沼・本吉地区

R7の配置状況　中学校卒業者見込数(R7.3):467人

学校数		学級数					
		学科別					
4		普通	工業	商業	水産	総合
気仙沼	6	6				
南三陸	3	2		1		
気仙沼向洋	3		1		2	
本吉響	3					3
全日制計	15	8	1	1	2	3
必要学級数	10	53%	7%	7%	13%	20%

学校数		学級数					
		学科別					
1		普通	工業	商業	水産	総合
気仙沼(夜間)	1	1				
定時制計	1	1				

R21年春の姿　中学校卒業者見込数(R21.3):211人

学校数		学級数			
		学びの類型			
1		進学系	普通系	工業系 商業系 水産系	
普通系・職業教育拠点校	5	1	2	2 ※キャンパス校活用想定	
全日制計	5	1	2	2	
必要学級数見込み	5	20%	40%	40%	

学校数		多様な学びへの対応			
		学びの類型			
1		普通系	工業系	商業系	水産系
定時制(夜間)	1	1			
多様な学び計	1	1			

※圏域でアイデアルの要素を取り入れ、多様な生徒へのニーズに対応します。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。

＜参考:R7→R21の中学校卒業者見込数＞　(人)

市町村	R7	R21
気仙沼市	399	180
南三陸町	68	31
計	467	211

※中学校卒業者見込数は幼児人口(1歳から5歳)及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

3 令和13年度までに実施する学級数や学科の変更

○ 令和9年2月時点において、次のとおり学級数や学科の変更を予定しています。なお、令和11年度から令和13年度までに実施するものについては、別に定めます。

（1）南部地区

R9	―
R10	白石工業高校 設備工業科 1学級40人 → 社会基盤エンジニアリング科 1学級40人 村田高校 総合学科 3学級120人 → 2学級80人 伊具高校 総合学科 3学級120人 → 2学級80人

※上記のうち学科改編を伴うもの。

白石工業高校

【令和9年度】 機械科 2学級80人 電気科 1学級40人 工業化学科 1学級40人 建築科 1学級40人 設備工業科 1学級40人	⇨	【令和10年度】 機械科 2学級80人 電気科 1学級40人 工業化学科 1学級40人 建築科 1学級40人 社会基盤エンジニアリング科 1学級40人

村田高校

【令和9年度】 総合学科 3学級120人 言語・自然科学系列 介護福祉系列 商業実践系列 機械・自動車系列	⇨	【令和10年度】 総合学科 2学級80人 総合教養系列 介護福祉系列 機械技術系列

伊具高校

【令和9年度】 総合学科 3学級120人 農学系列 機械系列 情報系列 福祉系列	⇨	【令和10年度】 総合学科 2学級80人 農業環境系列 創造機械系列 保育福祉系列

（2）中部地区

R9	宮城広瀬高校 普通科 6学級240人 → 募集停止 工業高校 電気科 2学級80人 → 1学級40人 広瀬ideal高校 普通科 200人(新設)

（3）北部地区

R9	松山高校　普通科　1学級40人、家政科　1学級40人　→　募集停止 鹿島台商業高校　商業科　2学級80人　→　募集停止 南郷高校　普通科　1学級40人、産業技術科　1学級40人　→　募集停止 大崎創成高校　アグリ・フード・ビジネス科　4学級160人（新設）
R10	加美農業高校　農業科　1学級40人、生活技術科　1学級40人　→　農業共創科　1学級40人

※上記のうち学科改編を伴うもの。

加美農業高校

【令和9年度】
農業科　1学級40人
生活技術科　1学級40人
農業機械科　1学級40人

⇨

【令和10年度】
農業共創科　1学級40人
農業機械科　1学級40人

（4）東部地区

R9	石巻高校　普通科　6学級240人　→　5学級200人
R10	石巻北高校　総合学科　4学級160人　→　3学級120人 登米総合産業高校　電気科　1学級40人、情報技術科　1学級40人　→　情報電気科　1学級40人

※上記のうち学科改編を伴うもの。

石巻北高校

【令和9年度】
総合学科　4学級160人
　食農系列
　家庭系列
　経情系列
　教養系列
　進学系列

⇨

【令和10年度】
総合学科　3学級120人
　食農系列
　家庭系列
　経情系列
　志学系列

登米総合産業高校

【令和9年度】
農業科　1学級40人
機械科　1学級40人
電気科　1学級40人
情報技術科　1学級40人
商業科　1学級40人
福祉科　1学級40人

⇨

【令和10年度】
農業科　1学級40人
機械科　1学級40人
情報電気科　1学級40人

商業科　1学級40人
福祉科　1学級40人

（5）気仙沼・本吉地区

R9	―
R10	本吉響高校　総合学科　3学級120人 → 2学級80人

※上記のうち学科改編を伴うもの。

本吉響高校

【令和9年度】
総合学科　3学級120人
　進学教養系列
　産業情報系列
　人間環境系列
　生活表現系列



【令和10年度】
総合学科　2学級80人
　進学教養系列
　福祉系列
　農業系列

第5章　教育環境の整備

1　生徒に対する支援体制

○　早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する地域等については、学校までの距離や交通手段等の制約を受けることなく、生徒が安心して学ぶことができるよう、市町村と協議しながらスクールバス等の通学・移動手段の導入基準や具体的な運行条件について検討します。

○　生徒の多様な背景や状況に対応できるよう、スクールカウンセラーを効果的に配置し、多様化・複雑化した教育課題に対する相談体制を強化します。また、スクールソーシャルワーカーの積極的な活用により、地域の関係機関や家庭と連携した指導の充実を図ります。

○　家庭環境や心身の状況等、多様な背景や困難を抱える生徒に対し、小・中学校からの切れ目ない支援を行うため、義務教育との接続をこれまで以上に強化し、学校と市町村等が連携して対応するなど、教育分野にとどまらない関係機関との協働を推進します。

2　教職員に対する支援体制

○　新たな魅力ある高校の設置に向け、学校現場が実践の初期段階において優先的に取り組むべき事項や、段階的な移行手順を明示することにより、現場の円滑な導入を支援するとともに、教職員が特色ある教育内容の検討に専念できる支援体制を整備します。

○　令和8年4月に設置した「オンライン教育センター」をデジタル技術を活用した効果的な教育手法を県内の各校に普及させるための教職員の学びの拠点とします。また、オンライン教育センターで開発・実践されたコンテンツを活用することにより、効果的な授業の実践を支援するとともに、教員の指導力向上と業務負担軽減を図ります。

○　遠隔授業に専従する教員や、時程調整等を担う遠隔教育コーディネーター、遠隔授業の配信準備、動画収録・編集等を行うサポートスタッフを配置し、教員が授業運営等に注力できる体制を構築します。さらに、AI 授業支援アプリを活用した学習状況の把握等の効率化を図るほか、受信校における専門外教科の指導負担を解消し、持続可能な執務環境を実現します。

○　また、専門知識を有する外部人材を活用し、より専門的な授業を展開するとともに、動画作成や学習意欲を高める画面構成などの実践的なスキル習得を支援する研修を実施し、県全体の学びの充実と、それを担う教員の育成を図ります。

○　産学連携による各種講座や校内組織を核とした定期研修等を通じて教員の資質・専門性の向上を図るとともに、支援人員の配置、教材のアーカイブ化、生成 AI 等を活用した校務の効率化を推進することで、教員が教育の質向上や新たな挑戦に注力できる持続可能な執務環境を構築します。

○　大学と連携した STEAM 型授業設計等の体系的な研修を通じて教員の指導力向上を図るとともに、授業モデルの共同開発やデータベース化、学校間での教育リソース共有、外部連携窓口の集約等による業務の効率化を推進し、持続可能な STEAM 教育を推進する環境を構築します。

第6章　計画の進行管理と公表

1　中期的な公表

○　個別の具体的な高校配置については、約4～5年前の7月頃に公表し、検討します。

2　短期的な公表

○　上記1とは別に、各年度の中学校卒業者見込数等に対応する学級数の調整は1年前の5月頃に、学科改編は2年前の5月頃に公表します。

3　実施計画の更新

○　上記1及び2の内容を反映し、3月頃に実施計画を更新します。

＜各年度の流れ＞

